

谷村地区 其の三

神社名 御嶽神社

鎮座地 都留市下谷深田二、三七三番地

祭神 大己貴命、少彦名命

例祭

九月一日

もとは九月十一日に行われた。春は四月十一日である。

由緒

文化八^辛未年（一八一一年）の創建であると伝えられているが、実際にはもっと古い創立のようである。

甲斐国志古蹟部に

一〔深田村〕^{下谷村ノ支村} 本村ノ東北ニアリ民戸僅ニ七戸許東山ノ下ニ連ナリ少シク地ヲ穿テバ水ノ湧出ツル地ナリ故ニ深田ト称スト云



略。とあり、

また神社部には

一〔御嶽権現〕^{谷村支村深田ニアリ} 見捨地深田村産神、祭礼三月十一日神

主同上（井倉村神主）、となっている。

山梨県市郡村誌によると

〔御嶽社〕 村社々地東西拾之間老尺式寸南北四間面積五拾貳坪東北字深田ニアリ祭神豊玉比売命祭日陰曆三月十一日八月十一日社地中樺大樹壹株アリ囲壹丈余。と記されている。

明治五年三月村社となる。

社殿

本殿 権現造り檜皮葺 方三尺。

雨屋 切妻トタン葺 方一間半。

拝殿 入母屋トタン葺 三間半〓二間。

鳥居 木造一基。

境内社

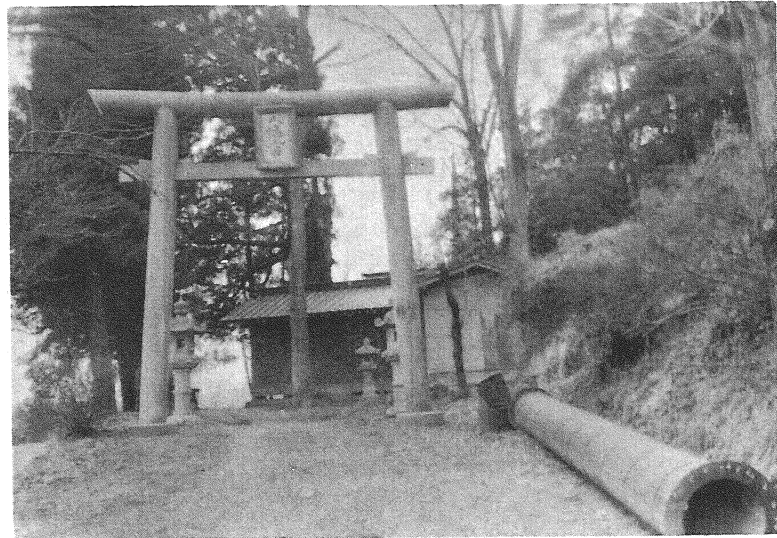
山神社 大祇命を祀る。

現在の社殿はそんなに古いものではなく、鳥居にしても、神灯にしても新しいものである。神灯の奉納年月日は、大正九年十一月と刻まれている。

なお深田には、領主に献上したという伏見氏方の「菖蒲園」のお

もかげが今も残されている。

神社名 勝山八幡神社



鎮座地 都留市川

棚八久保

山九〇番

地

祭神 菅田別尊

足仲津彦命

氣長足姫命

御神体

神鏡としての銅

鏡。応神天皇乘

馬のお姿があつ

たが、今はなく

台座のみである。

例祭

九月一日。

もとは九月十五日であった。

神事用具

もとは神楽の奉納があつたが、今は神事行事なし。

由緒

応永三年（一三九六年）小山田備中守が、勝山に正八幡宮を奉斎し社殿を造営。神田四石八斗五升を付された。

文禄三年（一五九二年）浅野左衛門尉長政公が、勝山城構築に際し社殿を西野八窪に遷宮された。

その後、鳥居、秋元各領主の信仰が篤く社殿の造営かなされ、御供米として毎年正月十一日には、谷村御蔵前において十二俵が奉納された。

明治六年郷社に列せらる。

甲斐国志には

一〔勝山正八幡宮〕川棚村 本村産土神ナリ八窪山ノ頂ニアリ古

ハ勝山ノ山上ニ鎮座アリテ谷村ノ産神ナリシガ文禄三年浅野左衛

門佐領知ノ時此山ヲ城郭ニ築クトテ神祠ヲ西南ノ方八窪山上ニ移

スト云薄原村神主兼帯。祭礼三月十五日。となつてゐる。

また

甲斐国社記によると

勝山八幡大神 川棚村産土神足仲津彦命 外ニ神 右八幡宮住吉御城山遷鎮

座アリシヲ文禄年中浅野左衛門尉御在城之節川棚八久保山江移シ

タマヒ御城鎮守秋元但馬 御代々崇敬御造営有之云。

神宝 八幡宮照光院宮道晃法親王御筆

元禄十二己卯年二月奉納

秋元但馬守殿

神鏡 一面

奉納 鷹絵一幅

三十六哥仙額 但シ三十三枚。とある。

社殿

本殿 流造り一間社、銅板葺、

雨屋 切妻トタン葺、一間〓二間、

拝殿 切妻トタン葺、四間〓三間、

「勝山荘」の額がある。

神庫 切妻トタン葺、二間〓一間半、

鳥居 コンクリート造 一基。

「八幡神社」の額が掲げられている。

昭和三十六年四月竣工、奉納興秋保 とある。

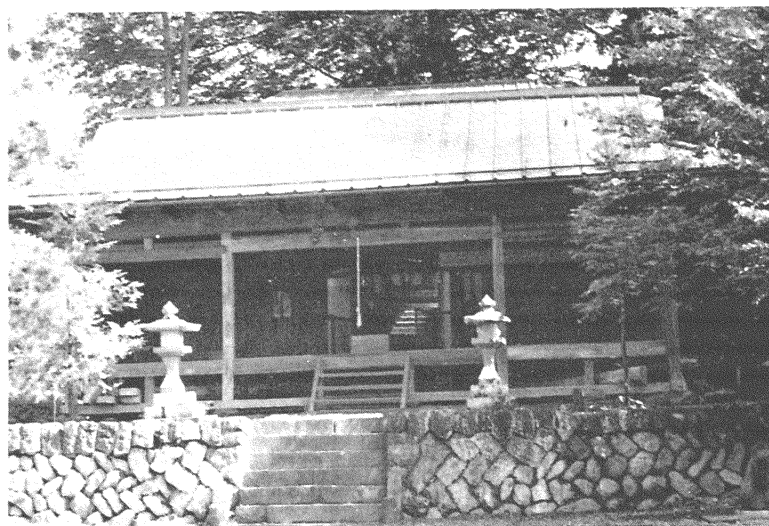
神灯 二対 内一對に 安永八年己亥四月吉辰 石工 幸左エ門 と刻まれている。

境内 一、五〇〇坪。

南鶴神社誌によると神鏡について、

鏡〔谷村八幡宮〕甲州郡内秋元但馬守家頼下江源左衛門藤原恒信嫡子六郎衛門藤原忠恒元禄十五年九月奉納。と記されている。

神社名 生出神社



鎮座地 都留市法

能一、一

四〇番地

祭神 建御名方命、八坂刀売々

御神体

神鏡、石棒、木

彫り人形、など

が祀られている

とのことである。

例祭

九月十日

神事用具

神楽保存。

由緒

この神社は、四日市場の生出神社、井倉の生出神社と共に生出三社の一つで、生出山を囲んで三地区に配置されている。

延長七年（九二九年）諸国に大洪水があり溺死者が多く、農作物も皆無となったため、諸社に国司をして奉幣の際当社にも奉幣があったといわれている。

宝暦十一年（一七六一）谷村代官江川太郎左衛門が現社殿を造営された。

明治五年村社となる。

明治四十年二月十六日神饌幣帛供進指定神社となる。

甲斐国志に

一（生出明神）法能村 本村氏神社地神領除地畑式畝五歩天文十三年小山田信有が文書に神藤若狭所蔵 宮原の大明神彼社に於て竹木を取ルベカラズトアル是ナリ神刀一振長二尺七寸二分 反一寸二分 銘甲州都留郡駒橋元近作之天文十七年九月吉日。例祭七月二十五日神主志村大和、とある。

社 殿

本殿 一間社流造り彫刻彩色。

雨屋 鉄骨トタン葺、切妻方三間。

拝殿 入母屋造りトタン葺 五間半Ⅱ三間、拝殿より一間巾にて二間の廊下で本殿につながっている。

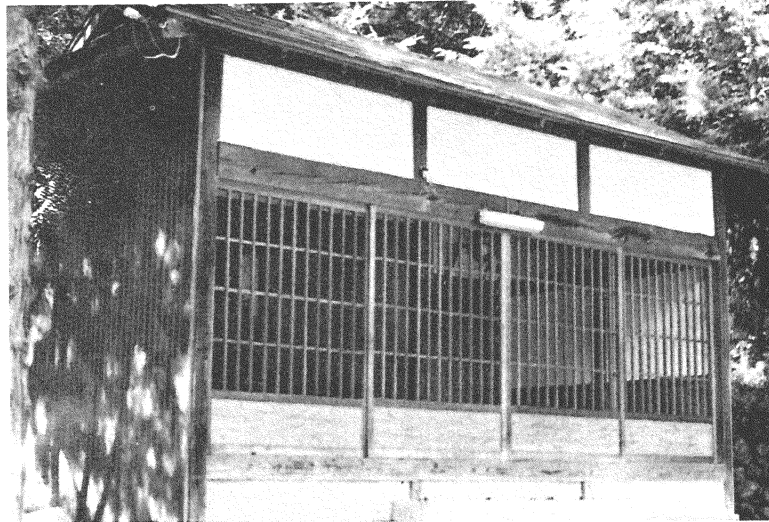
神社名 七社神社

鎮座地 都留市法能引の田二、三七二番地

祭 神 伊邪那岐命、伊邪那美命、

天照大神、大己貴命、

事代主命、月夜見命、須佐之男命、



例 祭

九月十日

由 緒

伝えられるところによると、およそ七百年位前の創立であるとのことである。引の田部落の産土神として、地域住民の信仰は非常に厚いものがある。社殿前の石段は宝暦二年（一七五二年）

神灯 一對 文政^年申季七月吉祥日 当村氏子中 とある。

鳥居 鉄製一基 昭和五十二年九月一日建設。

鈴 一

軽島の森について

第九十八代南朝の皇孫、長慶天皇が重臣を従えてこの地に行啓し、仮住居を定められたと伝えられている「軽島の森」は、都留市法能宮原地区であるという伝説を、地域の人々は今もお信じている。

法能に通ずる農道の中間に石塚があり、その上部に石の五重の塔があったとのことであるが、たまたまこの地は小学校改築移転地となった。

大正の初期考古学の岩本教授が発掘調査をされたが確証は得られなかった。しかし、この辺一帯を「宮城」と呼んでいた。また生出神社の山頂には「まがひと天海戸」と呼ぶ約百坪の平地があり、その近くに「公郷」という地名もある。

生出神社に向って右後方に大桑山がある。その山の山頂と中腹に各々小社があつてお内裏さまが祀られている。この社は金比羅さんと称されている。頂上の金比羅さんに皇帝が祀られ、下の金比羅さんには皇后が祀られていると伝えられている。

あれこれと思い合せ、古老の話などを聞くと、何か歴史的にもいわれがありそうな気がしてならない。

に建立されたものである。

明治五年に村社となる。

山梨県市郡村誌に

〔七社神社〕 社地東西式拾四間南北八間面積百九拾貳坪本村南方旧法能村引の田組ニアリ祭神未祥祭日七月二十日社地中黒木大

樹式株アリ囲老丈。とある。

社 殿

本殿 流造り檜皮葺 三尺Ⅱ四尺。

雨屋 本殿の両屋は、文化十三年（一八一六年）七月改築、入母屋造りトタン葺二間Ⅱ一間半。

拝殿 大正二年十二月廿五日改修。入母屋造りトタン葺、四間Ⅱ二間。

鳥居 現在の鳥居は石造で、昭和四十九年九月一日に建立されたものである。

鈴 一 奉納。

境内社

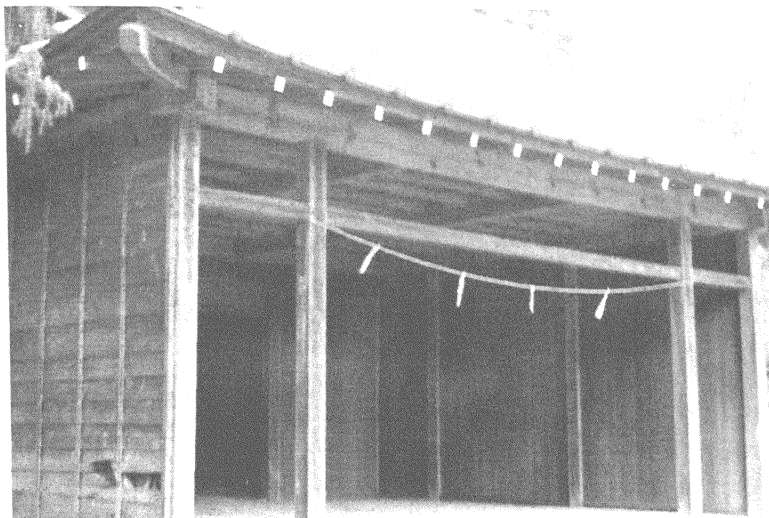
境内地三〇〇坪の中に、左記三社の境内社が祀られている。

山神社

天神社

金山社

神社名 愛宕神社
鎮座地 都留市法能住吉山二五〇番地
祭神 火産霊神
聞竈神
高霊神



例 祭

四月二十四日

神 事 用 具

神楽奉納有り。

由 緒

創立年代等不詳。
この地域は早魃の地であつたので、農作物は枯死し、火災は度々起つたため、火の神を祭つて水の恵みを祈願した。と言ひ伝えられている。

社 殿

本殿 流造りトタン葺 方三尺。
雨屋 切妻トタン葺 方一間半。
拝殿 入母屋トタン葺 三間Ⅱ二間半。
鳥居 鉄製朱塗り両部造。

愛宕神社の立額が掲げられている。(昭和五十三年四月二十四日竣工)。

境内社

百拾九坪の境内に、浅間、養蚕の二社が祀られている。

愛宕神社の裏の方に「聖^{ひじり}社」の社地がある。また神社の近くを流れているきれいな川があるが、昔から「お聖川」と呼ばれている。その川の上流に大きな栃の木が三本植えてあり水源地になっている。附近に小さな祠が祀られ、毎年四月二十二日にお聖さまのお祭りが行なわれている。この栃の木は、昔新屋敷という旧家の先祖が植えたものであるという。この附近で石棒数本が掘り出されたが、現在部落には一本だけ保存されている。

神社名 山 神 社

鎮座地 都留市法能天神山一、四二二番地

境内社

一社あるも祭神等不明である。

祭 神 大山祇命

例 祭

四月十七日

由 緒

創立年代等不明であるが、この地域の人々は、朝早くから夜遅くまで山野に働き、それによって生活していたので、山の神の恩恵を謝すと共に、災害のないことを願つて奉斎したもので盛大な山神祭りが行なわれていた。

一般に山神の供物は、御神酒、餅が主で、この餅は大木の切り株の上に米飯のこわめのものをのせ、ヨ・キのみねで三・四人で搗き固めたものでこれを御幣餅という。

供物を女が食べると、生まれてくる子供が気が荒くなると伝えられている。

山神のお使いは、蛇や猿であると考えられている。山神祭りには山の神は木の数を数えているので、この日山へ行くと木の数に入れられるといわれている。

社 殿

切妻トタン葺 一間Ⅱ一間半

天神山の裾で、現在ゴルフ場入口の森厳な林の中にあり歴史を物語っている。

神社名 金 山 神 社

鎮座地 都留市玉川金山五九番地

祭 神 金山彦命

金山姫命

例 祭

九月十日

九月一日に行なうときもある。

神 事 用 具

神楽保存。

由 緒

創立、勧請ともに不詳。

棟札によると、

天和元酉年(一六八一年)十月吉日村中氏子、とあり、この年再建されたとすれば創立年代はずっと古くなる。

また、元禄六年(一六九三年)十二月十一日葺替とあり、宝永二

年（一七〇五年）十月二十一葺替、と記録されている。
山梨県市郡村誌に

〔金山社〕 社地東西拾九間、竪尺六寸、面積貳百壹坪。本村北方玉川下組ニアリ祭神未詳祭は陰曆七月七日。社地中大樹三株アリ、枿壹本、囲老丈五尺、樺二本、囲老丈五尺。とある。

甲斐国志には

一〔金山権現〕

玉川 本村氏神祭

礼九月七日。社地

見捨地。神主同、

と記されている。

社 殿

本殿 流造り一

間。社で銅

葺。

拝殿 切妻トタ

ン葺五

間。二間。

鳥居 両部鳥居

一基。



境内社

末社として国常立命をまつる天神社がある。他に境内社として本殿に向って左右それぞれ一社ずつある。

境内は百拾七坪といわれ、本殿裏の大杉や右側の大樺がその昔を物語っている。